



寒川の昔の話を聞こう(3年生) 1/23♡2/2

3年生の社会科「地域の歴史に学ぶ」学習では、学校運営協議会委員の宮崎定様(1月23日)、高井啓治郎様(2月2日)をお招きし、「昔の寒川」についてお話を伺いました。お二人は、写真や資料をもとに、当時の人々の暮らしや文化を子どもたちに分かりやすく伝えてくださいました。子どもたちは、今の寒川との違いに驚いたり、昔の人々の工夫に感心したりしながら、ふるさととの歴史に興味を深めていました。

本校の学校の教育目標である「ふるさとを愛し ともに伸びる 児童の育成」は、地域の皆様の温かいご協力によって支えられています。今回の学習を通して、子どもたちはふるさとを誇りに思い、自分たちの地域についてもっと知りたいという気持ちを高めています。

地域の方々から直接お話を伺う機会は、教科書だけでは得られない学びを子どもたちにもたらしめます。これからも、学校と地域が力を合わせ、子どもたちの豊かな学びと成長を支えていきたいと考えています。宮崎様、高井様、貴重なお話をありがとうございました。



日本の伝統文化を伝える(お勧めの本・読み聞かせを通して)

今年度、私はお勧めの本の紹介や低学年の児童を中心に絵本の読み聞かせを続けています。その中で大切にしていることの 하나가、日本の伝統文化や伝統行事を正しく伝えることです。社会が大きく変化し、生活様式も多様になる中でも、私たちが古くから受け継いできた文化には、子どもたちの心を育てる力があります。

お正月のお節料理やしめ縄、節分の豆まき、ひなまつりなど、年の初めに行われる行事には、それぞれに込められた願いや意味があります。読み聞かせでは、こうした行事の背景や、昔から大切にされてきた思いを、子どもたちが自然に感じ取れるよう工夫しています。物語を通して伝えることで、難しい説明をしなくても、子どもたちは「どうしてこの行事をするのか」「どんな願いが込められているのか」を自分なりに受け止めてくれます。

伝統文化に触れることは、単に昔の習わしを知るだけではありません。自分の暮らしや家族、地域を大切に思う気持ちを育て、これからの時代を生きる子どもたちの心の土台にもつながります。

おうちでも、折にふれて日本の文化や季節の行事について話題にしたいいただき、子どもたちが伝統に親しみ、季節の移ろいを楽しめるよう支えていただければ幸いです。

